

コロナ禍における中国茶の販売方法の変化



明山茶業株式会社
取締役 中国室長
張 文昕

1988年上海より来日。名門中国料理店等の勤務を経て現在に至る。生涯学習講師、中国茶高級評茶員。特技は卓球、イラスト。好きな食べ物は江戸屋の魚定食。

経済に大打撃を与える「ゼロコロナ」対策

ご存じの方も多いと思いますが、コロナウイルスの完全撲滅を目指す中国の感染対策「ゼロコロナ」は、感染抑制と社会経済活動を両立する日本と比べて相当厳しいものです。徹底したPCR検査と隔離、都市封鎖を進めています。中国の上海市では、再び新型コロナウイルス感染症（以下コロナウイルス）の感染者数が増えたため、2022年の3月末から順次ロックダウンを導入。

その間、消費が昨年と比べて半減するなど、経済へのダメージが深刻となりました。それから約2か月後の6月1日に、ロックダウンは解除。さらに2か月以上がたった今、経済活動や市民生活はほぼ正常化しているように見えますが、今でも完全に回復していない状況です。各地で厳しい外出

制限が取られたことなどが経済に打撃となって、雇用環境の悪化も懸念されています。

SNSで苦境を乗りきる中国茶メーカーが急増!?

中国茶業界も例外ではなく、上海のみならず中国国内で見ると、まだまだ苦戦している状況が続いています。まず、飲食店の休業が続いている間は、業務用のお茶の需要がほぼなくなります。飲食店をメインのクライアントにしていた店舗や業者は休業も余儀なくされ、中には廃業に追い込まれた店舗や業者もありました。弊社中国での取引先も、上海にあるレストラン用のお茶の出荷は、しばらく厳しい状況が続くだろうと予想しています。

一方で、中国国内のネット販売は、SNSの普及により大盛況。ゼロコロナ政策の中でSNSを利用し、お客様のニーズにあった商

品の開発を進めているお茶メーカーも増えてきました。代表的なのが、中国茶輸出の最大手「福建茶業進出口有責任公司」が近年展開している「白茶」シリーズ。贈答用と家庭用を兼用した各商品は、パッケージもとてもおしゃれで、国内で大変な人気を誇ります。今後は海外展開も予定していると担当者から話を伺いました。

また、中国では古くから「春節」や「中秋節」といった伝統的な祝日に贈り物をする風習があり、そこに着目した各中国茶メーカーは、SNSを使って競うように関連商品をアナウンスしています。これから、10月1日の建国を祝う「国慶節」の連休がやってきますが、感染状況によっては厳しい外出制限が復活する可能性もあります。そのため、SNS上では「国慶節」に関連した新商品も多く見られるようになってきました。

ゼロコロナ政策の影響は日本にも及んでいる!?

これまでの連載でも触れてきましたが、ゼロコロナ政策の影響は、日本にも及んでいます。上海市のロックダウンの間、わが社では一部のお茶の輸入が滞ってしまい、安定供給には大変苦労しました。2022年8月現在、上海市のロックダウンは解除されたままでしたが、中国国内では、すでに封鎖が延長された地域や再封鎖されそうな地域が出てきています。これは弊社に限ったことではありませんが、コロナ禍以前より、中国からの輸入調整は難しくなっているかもしれません。

コロナウイルスという未知のウイルス対策には、いまだ「ゼロコロナ」と「ウィズコロナ」のどちらがいいのかは誰もわかりません。しかし、こうした困難な時代こそ、我々の真価が問われる時です。そのためには、長きにわたる日本国内で中国茶を取り扱ってきたノウハウを生かし、お客様の心を掴む良質な商品を安定供給できるように努力し続けるのみです。